

## 403) 北国の思い出

若かった日の後ろ姿を	今でも君は覚えていますか
薄紅色の浴衣 <small>ゆかた</small> が似合う	湖畔で過ごしたあの夏の夜
美しかった君の笑顔が	花火の中で輝いていた
ふたり過ごした北国の夏	あの思い出は今夢のなか
若かった日の後ろ姿を	今でも君は覚えていますか
白い自転車二人乗りして	お花畑を走ったあの日
美しかった君の黒髪	ま夏の風に揺らいでいたね
ふたり過ごした北国の夏	あの思い出は今夢のなか
若かった日の後ろ姿を	今でも君は覚えていますか
ポプラ並木の緑の中を	素足で歩いたあの雨の朝
美しかった君の瞳に	涙ひとつぶ光っていたね
ふたり過ごした北国の夏	あの思い出は今夢のなか
若かった日の後ろ姿を	今でも君は覚えていますか
修道院のニレの木陰で	昼寝をしてたあの午後のこと
美しかった君の唇	何を言おうとしたのでしょうか
ふたり過ごした北国の夏	あの思い出は今夢のなか
若かった日の後ろ姿を	今でも君は覚えていますか
美しかった君の面影	ぼくの心に焼き付いています
ふたり過ごした北国の夏	あの優しさはもう帰らない
ふたり過ごした思い出の日々	すべてを雪が埋めてしまった